

歴史と文化の都 室町文化繁栄の地

京都府

京都市

京都市は千有余年もの間、雅を極めた都として、常に日本中の人々に憧憬を抱かせ続けてきた町です。四季の魅力に彩られた悠久の地として、名所や旧跡をいたるところに残し、さらに今新しい文化を生み出しています。

時代の変化のあるたびに新しい伝統を生み、あくなき文化の蓄積がなされてきた京都ですが、現在、その歴史的伝統文化をみると、214件の国宝、1,886件の重要文化財の指定を受けた有形文化財（令和2年4月1日現在）をはじめ、伝統工芸の西陣織・京友禅・清水焼・京仏具・京漆器・京人形・京扇子、伝統芸能の京舞・大念仏狂言・歌舞伎・六歳念仏踊など、さらには精神文化の茶の湯・いけばな、また、葵祭・祇園祭・京



鴨川

都五山送り火・時代祭の京都四大行事をはじめとする伝統行事の数々など枚挙に暇がありません。これらの文化が絢爛と花開き、山紫水明の自然の中に、あるいは町並みの中に息づいています。

京都と足利氏との関係は、日本史上変革の時期ともいえる「太平記」の時代からで、尊氏から義昭までの足利將軍15代、約240年にわたる幕府の歴史すべてが、京都での足利氏の歴史ともいえます。

足利將軍の菩提寺ともなった等持院や尊氏建立の天龍寺、室町幕府に隣接して建てられ

た相国寺は言うまでもなく、ことに3代義満の金閣、8代義政の銀閣に象徴される北山・東山文化は、現代日本文化の原点をなすもので、今日、京都には、足利時代に定着した風俗文物が息づいており、寺院神社をはじめ各所にその足跡を見ることができるようです。

■行事

●5月15日 葵祭（雨天順延）

葵祭は下鴨神社と上賀茂神社の例祭で、御所車、勅使、牛馬にいたるまでアオイの葉で飾られています。総勢約500名、馬36頭、牛4頭、牛車



葵祭

2基の行列は先頭から最後尾まで約1キロに及び、平安貴族そのままの姿で市中を巡行します。

●7月1日〜7月31日 祇園祭

日本三大祭のひとつ、祇園祭は1150年を越える歴史と、7月の1か月に渡る大規模な祭事で広く知られ、なかでも17日の前祭山鉦巡行と24日の後祭山鉦巡行、巡行前に山鉦が建ち並ぶ宵山は多くの人で賑わいを見せます。

●8月16日 京都五山送り火

夏の夜空を彩る「京都五山送り火」は、お盆の精霊を送る伝統行事です。東山に大の字が浮かび上がり、続いて、松ヶ崎に妙・法、西賀茂に船形、大北山に左大文字、そして、嵯峨に鳥居形が点ります。これら五つの送り火はすべて京都市登録無形民俗文化財です。

●10月22日 時代祭（雨天順延）

時代祭は、平安遷都から1100年目にあたる、明治28年に平安神宮が創建された際、広く市民によって構成された「平安講社」により、延暦か

ら明治に至る、千余年の時代風俗行列が行われたのを始めとするものです。細部まで京の伝統技術で再現された、約2000人、2kmにわたる絢爛豪華な行列は、時代をさかのぼり、過ぎ去った京都の歴史を偲ばせます。



時代祭

会員：京都商工会議所、

(公社)京都市観光協会、

等持院、六孫王神社、

法雲院、相国寺、

鹿苑寺(金閣寺)、

慈照寺(銀閣寺)

法雲院



平島公方足利將軍家は、明治になり足利家の末裔として華族に列するために請願活動を四度行うも不首尾に終わることとなります。この請願は、足利氏のほか、親戚代表の一人として公家の七條家、足利氏家臣団、足利氏所縁の相国寺、等持院などの各管長が名を連ねました。法雲院は上述の七條家の菩提寺です。

六孫王神社



六孫王は、清和天皇の六男を父として生まれ、経基と名付けられたが、皇室では六男の六と天皇の孫ということで六孫王と呼ばれていました。六孫王の末裔には源義家・頼光・頼政・木曾義仲・頼朝等、また足利・新田・細川・島津・山名・今川・明智・小笠原・徳川等の武将が多数輩出され、それぞれ子孫繁栄している。王が埋葬されその前に社殿を築いたのが、六孫王神社の始まりです。

等持院



足利將軍家の菩提寺で靈光殿内には足利尊氏以下歴代の將軍の木像が並んでいます。(5代・14代除く)

行事

● 毎年10月初め 等持院寺宝展
<http://toujiin.jp>



銀閣寺



正式には慈照寺といい特に庭園は東山文化を代表する名園として名高く、白砂と緑のコントラストが美しく心が落ち着きます。



<https://www.shokoku-ji.jp/ginkakuji/>

金閣寺



正式には鹿苑寺といい足利義満の別荘として造られました。

写真：鹿苑寺蔵

行事

● 2月 3日 不動堂開扉法要
 ● 8月 16日 不動堂開扉法要

相国寺



相国寺は、足利義満が幕府の東隣に約10年の歳月をかけ、明徳3年(1392)に創建された寺である。度重なる災禍にもかかわらず、多くの禅僧を輩出し禅文化の興隆に貢献した。現在の法堂(はつどう)は無畏堂(むいどう)と称し、慶長10年(1605)豊臣秀頼の寄進により再建されたもので仏殿を兼ね、現存最古の法堂建築、「鳴き籠」で知られる天井画「蟪蛄図」が有名である。



<https://www.shokoku-ji.jp>